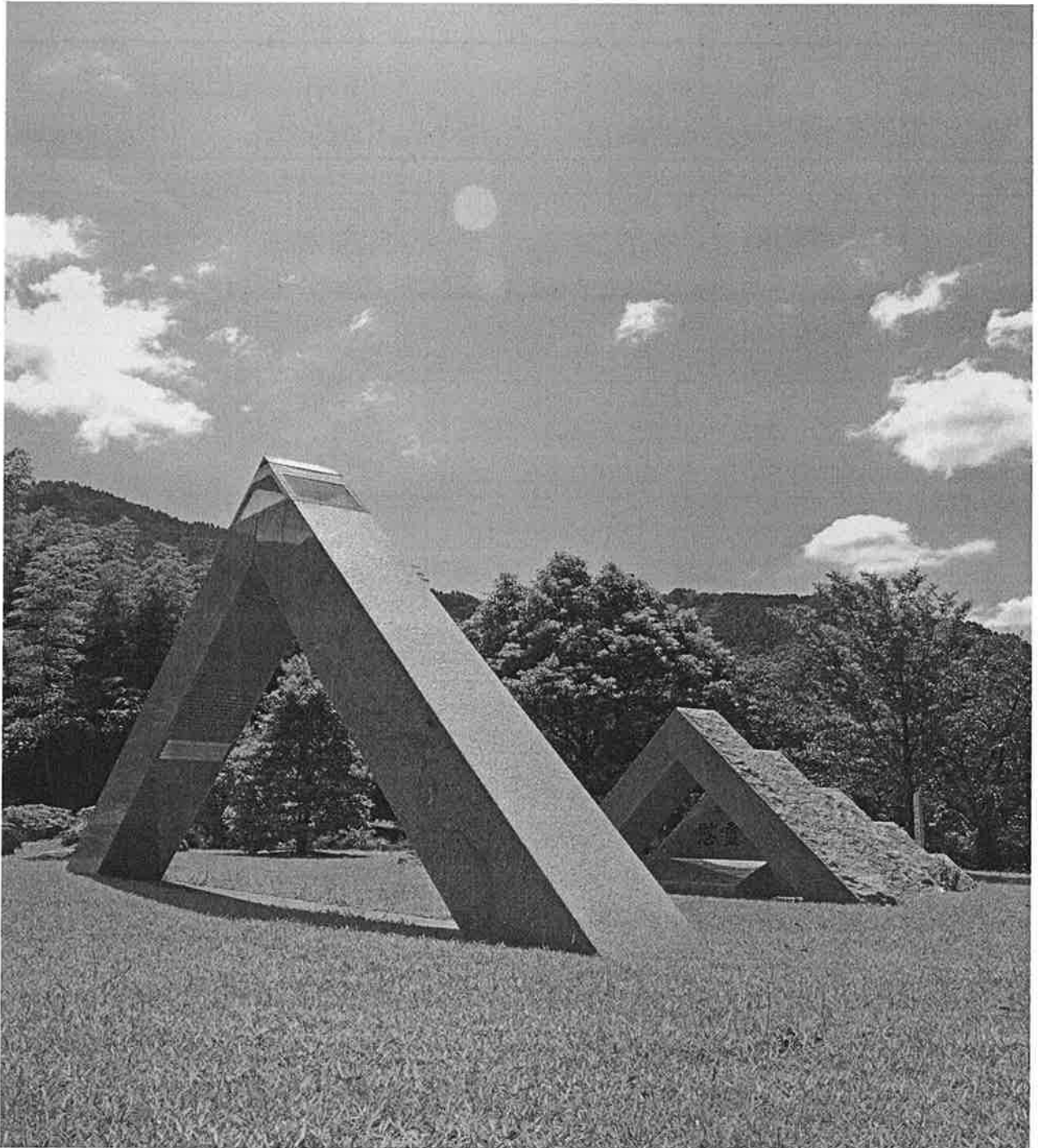


令和元年度

# 八女市平和祈念式典



日時：令和元年8月6日（火）午前8時10分開式

会場：星のふるさと公園平和の広場

八女市役所 URL:<http://www.city.yame.fukuoka.jp/>

## 平和祈念式典 次第

1. 開 式

2. 黙とう「サイレン吹鳴」

原爆死没者の慰霊と恒久平和を祈念

3. 式 辞「八女市長 三田村統之」

4. 広島市長メッセージ

5. 来賓あいさつ

6. 平和の誓い

「小学生代表 八女市立星野小学校 代表」

「中学生代表 八女市立星野中学校 代表」

7. 千羽鶴献呈

8. 献 花

9. 「この灯を永遠に」合唱（星野中学校全校生徒）

10. 「星の祈り火」独唱（おかある 星のらぶ）

11. 閉 式

## 平和の塔の由来

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。その広島を焦土と化した火が、広島から遠く離れたこの地に今もなお、燃え続けています。

八女市星野村（旧星野村）で生まれ育った山本達雄氏は、1944年（昭和19年）12月に3度目の召集を受け、豊田郡大乘村の暁2940部隊で任務に就いていました。

1945年8月6日山本氏は、いつもの通り、広島の宇品にあった暁部隊司令部に向かうため、汽車に乗っていました。そして、もうすぐ広島駅という所で、突然車中をイナズマ（稲妻）が走ったかと思った瞬間、乗客は床に叩きつけられ、大地を揺るがす爆発音とともに汽車が止まりました。無事を確認した山本氏は、軍人としての使命感から、汽車を降り司令部に向かって走り出しました。また同時に山本氏の脳裏には、市内で金正堂書店を営む叔父・山本彌助の安否が気掛かりでした。しかし、市内に近づくにつれて目の当たりにするのは、燃えさかる炎の中、男女の区別もつかないほど焼けただけ、もがき苦しむ人々の群れと、断末魔のうめき声。その惨状は、この世のものとは思えない地獄絵だったといいます。

8月15日終戦を迎え、山本氏は、これまで父親代わりに自分を育ててかわいがってくれた叔父の行方を必死になって探しましたが、どうしても見つけることができませんでした。

復員命令が出た山本氏は、一面焼け野が原となった広島で、何の手がかりも見出せないまま、最後の別れに金正堂書店の焼け跡に行きました。そこで、書店の地下壕でくすぶり続けていた火を見つけ、せめて叔父の遺骨代わりにと、出征するとき祖母が持たせてくれたカイロに移しました。9月16日のことでした。

こうして広島の原因の火は、奇跡的に350km離れた八女市星野村へと運ばれることとなりました。以来、この火は、遺骨すら見つけることができなかった叔父・彌助と、目の当たりにした多くの原爆犠牲者の供養と怨念の証として、山本家の仏壇に灯され、火を絶やさないために火鉢やカマドにも移し、人知れず23年間灯し続けられました。

戦争のない平和な世界への願い、しかし、原子爆弾に対するどうしようもない憤り。

息絶える人々に託された憎しみと報復への約束。23年の歳月は、山本氏にとって言葉では到底表現できないほどの苦しい心の葛藤の日々でもありました。

1968年（昭和43年）、当時の星野村は、この火を全村民の平和への願いとして受け継ぎ、同年8月6日、旧星野村役場に建立された平和の塔に灯され、以来、毎年広島に原爆が投下された8月6日午前8時15分、全村民をあげて平和祈念式典を開催してきました。

1988年（昭和63年）5月にはニューヨークで開催された第3回国連軍縮特別総会に「平和の火」として届けられ、また全国各地に採火され、平和のシンボルとして灯されました。その後「平和の火」は、被爆50周年を迎えた1995年に整備された平和の広場に、福岡県原爆死没者慰霊の碑と共に新たに建立された平和の塔に灯されました。

2011年この火は、合併と伴に八女市が引き継ぎ、毎年、原子爆弾が投下された8月6日に平和祈念式典を開催しています。

この火は、2004年5月11日永久の眠りにつかれた山本達雄氏の御霊と共に争いのない平和な世界を願って、これからも永遠に灯し続けます。



広島に投下された原爆の火を持ち帰られた  
故山本達雄氏



1995年まで灯し続けた平和の塔

### 福岡県原爆被害者団体協議会原爆死没者慰霊の碑

1995年に整備された平和の塔は、福岡県原爆被害者団体協議会の「慰霊の碑」と共に建立されました。

#### 原爆死没者慰霊の碑【碑文】

1945年（昭和20年）8月6日・9日、広島・長崎に原子爆弾が投下され、2つの都市は一瞬のうちに消滅しました。福岡県民でこの原子爆弾により現地で死没した人、帰郷後原爆症で死没した人、被爆後他県から福岡県に移住して死没した人、さらに身許不明の犠牲者として遺骨を現地に留める人、遺骨もないまま広島・長崎の地下に今もむなしく埋もれる人など未曾有の痛苦のうちに世を去った多数の福岡県の被爆者の霊に対し深い弔意を捧げます。福岡県内には、広島・長崎に次いで1万有余人の被爆者が住んでいます。そして、1995年（平成7年）被爆50周年を迎え、福岡県原爆被害者の長年の願いであった原爆死没者慰霊碑が星野村のこの地に建設されました。私たちは村のこのご厚意に感謝するとともに、建設にあたりご援助いただいた国・県をはじめ、県民各位のご援助に厚くお礼申しあげます。御霊よ安らかに眠ってください。



1995年3月 福岡県原爆被害者団体協議会

非核・恒久平和都市宣言に関する決議

恒久平和は、人類共通の念願であり国際的な核軍備拡大競争は新たな核戦争の危険を増大させている。

我が国は、核被爆国として、また平和憲法の精神からも再び広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

われわれは、命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願い核兵器廃絶を全世界に訴えるとともにこの人類普遍の大義に向かって不断の努力を続けることが肝要である。

よって八女市は平和への誓いを新たに決意し、ここに「非核・恒久平和都市」を宣言する。

以上決議する

昭和58年12月21日

八女市議会